



下野田在住。吉岡中学校1年生。読売新聞社主催の第56回全国小・中学校作文コンクールで読売新聞社賞を受賞。中央審査での1年生の受賞は全国で1人。才能あふれる細矢くんにお話を伺いました。

がんばる人は顔に出る



作文は 心を伝える手紙

No.13

もゆる
細矢 萌くん

『観客の声が消えた。最後の一矢。弓をささげ持ち、顔向け、足踏みをする。大きく息をはき、胴づくりの姿勢を保つ。無意識の動作を呼吸に合わせて無意識に続けていく。引き分けが最高になったとき、僕の耳には一切音が入らなかつた。』印象的な書き出しで始まるこの作文には、原稿用紙13枚にわたって、弓道を通じた家族の関係や、弓道の魅力が書かれています。

この大作をわずか1日で書き上げてしまったのが、吉岡中学校1年生の細矢萌くん。原稿用紙に向かうと、自分が伝えたいことや体験したことなどがすぐに頭に浮かんだと細矢くんは語ります。そして、その作品は、応募総数3万3,927編の中から、全国小・中学校学校作文コンクール読売新聞社賞に輝きました。

細矢くんが弓道を始めたのは小学校5年生のとき。運動は苦手だった細矢くんですが、本で読んだ真田幸村が弓をひくシーンに憧れ、双子の弟と両親の家族全員で弓道を始めることにしました。そして、弓道を続ける中で、日本古来の武道としての魅力や、弓道に集中する時間によって自分を見つめ直すことができたことなど、多くの人に弓道の魅力を知ってもらいたいと思うようになりました。

こうして、『伝えたい』気持ちを素直に綴った作文ができあがったのです。

今回の受賞を受けて細矢くんは「大勢の人から祝福され大きな賞を受賞したと実感した。全国で認められたことを自信に、図書部での文集作りなどに力を入れていきたい」と語ります。

文章を、『書いた人の心が伝わる手紙』と表現する細矢くん。彼からの手紙は、多くの人の心に響き共感を呼ぶ手紙となりました。

文芸よしおか

吉岡短歌会

滑らぬよう筆にゴム輪を巻きつけて

喪中のはがきの宛名書きする 大塚美智子

蝗追い雲追いかけて畔行けば

汗ばむ肌に風心地よし

喜多村マズエ

よみかけの冊子の葉の蝶々が

卓の上にてとびたんとす

田中久美子



わが家の愛ドル



斉藤 くるみちゃん 拓任くん
平成13年10月22日 平成17年1月26日生まれ
好昭さん、恵理子さんの長女・長男(第6区)

・メッセージ
元気で健康に育ってね!!

広報 よしおか vol.190

発行: 吉岡町役場 編集: 企画財政課
URL: <http://www.town.yoshioka.gunma.jp>
印刷: 松本印刷工業株式会社

群馬県北群馬郡吉岡町下野田560番地

☎0279(54)3111(代表) FAX 0279(54)8681